

〈特集〉



EICA 未来プロジェクト I に参加して

田中 敦志

(株)堀場アドバンスドテクノ開発部

(〒601-8306 京都市南区吉祥院宮の西町31番地 E-mail: atsushil.tanaka@horiba.com)

原稿受付 2011.5.19

EICA: 16(1) 27-28

〈活動内容と意義〉

2005年11月、環境システム計測制御学会(EICA)では、当該分野に関連する企業・公的機関・研究機関の持続的な発展を目的として、次世代を担う若手技術者・研究者らの企業枠・世代枠を越えた積極的な交流を促すための企画「EICA 未来プロジェクト」が立ち上げられた。

私は第I期メンバとして当該セミナーに参加させて頂いたが、以下にその内容に関して紹介する。

参加メンバは合計17名で、産(15名)、学(2名)の構成であった。

セミナーの形態としては、①先輩(=講師)による講義、②セミナー参加者を加えたディスカッション、の形式をとった。

・セミナー内容

- 第1回：堀場雅夫様 (株)堀場製作所『自今生涯』ベンチャー起業の草分けから若手技術者への応援
- 第2回：中里卓司様 (財)下水道新技術機構『技術者と水環境：東京都の下水道極の技術開発』1泊合宿
- 第3回：伊藤光明様 いであ(株)『環境コンサルの内外の動向』
- 第4回：坂井 聡様 古代学研究所『イタリア・ポンペイ遺跡における水道の敷設と発展について』
- 第5回：研究発表会検討会 研究発表へのテーマの検討 1泊合宿

各講義の内容が大変興味深く、その後のディスカッションにおいても自身が啓蒙される内容の質疑応答が活発に展開され、非常に有意義であった。

活動のゴールとしてEICA 研究発表会における報

告を企画頂き、参加メンバを3グループに分割して報告した。

・報告内容

- 第18回EICA 研究発表会 京都大学 百周年記念館
- A班：22世紀のエネルギーマップ
- B班：環境意識啓発技術の提言
- C班：家庭から創る未来の分散型循環システム

メンバが各々の業務に追われる中、メール、個別打ち合わせ、合宿などを経て徐々に報告内容をブラッシュアップしていった。

大変な苦勞があったが、今ではいい思い出になっている。

未来プロジェクトとしては第I期ということで、「多次元ネットワーク構築」という目的は明確であったが、進行方法やアウトプットに関しては未知数の状態で開催された。

そのためコーディネータの方々には大変なご苦勞があったと推察する。

この場を借りてお礼を申し上げる。



未来プロジェクト I 研究発表会集合写真

〈活動波及効果及び今後への期待〉

堀場アドバンスドテクノからは未来プロジェクト1期、5期、新未来プロジェクト1期に各1名の合計3名、堀場製作所も含めると、計6名が堀場グループより参加させて頂いている。

本活動で「仲間」となった方との、個人的なお付き合いのみならず、直接業務に関するお付き合いも数多くさせて頂いている。

普段の業務を離れて、若手技術者が日本あるいは世界の環境問題を議論する「場」として、未来プロジェクトは得がたい機会であったと思う。

「多次元ネットワークの構築」で参加者とコーディネータ、EICA 会員とのネットワークを構築した本活動が、新未来プロジェクトで新たに“国籍”を超えたネットワークの構築へ拡大すること、また新未来プロジェクトのキーワードである「日本環境技術の海外展開」に対する推進力となることを期待している。

EICA未来プロジェクト
『若手技術者が描く未来環境予想図』

グループ1テーマ
「22世紀のエネルギーマップ」
The energy map of the 22th century

堀川豊(三菱電機株)、片山貴史(住友重機械工業株)、
玉井秀泰(術神銅環境ソリューション)、西林健一郎(いであ株)、
平林和也(株安川電機)、松田吉司(株タクマ)

環境意識啓発技術の提言

Proposal of technologies and systems
to enlighten our environmental consciousness

池田和弘(京都大学)、岩田憲和(堀場製作所)、中村昌文(株日吉)、
藤井康二(株安川電機)、松浦謙一(富士電機システムズ株)、水野理(株日立製作所)

EICA研究発表会 2006年10月31日

家庭から創る未来の分散型
循環システム

Innovative circulation system
focused on the local waste treatment

EICA若手会 第三グループメンバー

株式会社 堀場アドバンスドテクノ	田中 敦志
株式会社 クボタ	平塚 哉
株式会社 東芝	水戸 一磨
株式会社 明電舎	永山 泰徳
京都大学 流域圏総合環境質研究センター	佐藤 圭輔